編　集　後　記

本稿は，2011年度最後の編集後記であるとともに，私にとっても最後の編集後記になります．今年度で北海道医療大学歯学雑誌の編集長としての仕事も終了です．長い間，皆様の暖かいご支援を受け無事今回の編集後記を書くことができましたことを心から感謝申し上げます．

前期（６月）から後期（12月）の間に国内外で起こった出来事を回想してみますと，国外で印象に残ったのはアラブの春（チェニジア，エジプト，リビア，イエメンなどで起こった大規模反政府デモと抗議活動により，いくつかの政権が崩壊した）でした．次に春が訪れるのはどこの国なのでしょうか？賢者は歴史から学び，愚者は経験から学ぶといわれていますが，良い国，街，職場，家庭は簡単にはつくれません．独裁者が去っても良い国をつくり上げるには数十年～数百年の歴史が必要かもしれません．振り返って国内に目を向けてみますと，震災からの復興の道を確実に歩んでおりますが道はまだ半ばの感があります．日本人はまれにみる勤勉，実直な民族であり，誇りとするところです．近年は少しずつほころびが見えてきているようなところもありますが，ニッポン再生を期待したいものです．そんな中，日本に元気をくれたのはなでしこジャパンでした．私も，最初の予選（３試合）から本選（３試合）まで早起きしてテレビで観戦しました．予選一回戦，準々決勝のドイツ戦，決勝のアメリカ戦は耐えて，耐えての試合の連続であり，日本人の気質・性格がにじみ出た試合でした．国民に大きな感動を与えました．さらにはJリーグの柏のJ２，J１連続優勝，プロ野球のソフトバンクの日本シリーズ優勝やコンサドーレ札幌のJ２からJ１リーグへの昇格など，日本中，北海道中が楽しいひとときに浸ることができました．

前号の編集後記で“私の45年近くの研究を中心に，さらに専門外の話題も含めて自分なりに感じたことをまとめ“生理学からみたヒト”を次号に総説として寄稿したいと思い現在執筆中です”と書きましたが，なんとか本号に掲載することができました．私の研究・学問に対する気持ちを込めて書いたつもりです．御一読下さい．ここで書ききれなかった話題については退職後に，掲載してくれる雑誌に投稿してみたいと思っています．生涯一研究者として，実験はできなくても啓蒙活動だけはしていきたいと考えています．

今号は私の総説，原著論文と７編のトピックスとなりました．数編の投稿論文があったのですが，残念ながら事情があり掲載がかないませんでした．このような経緯から，ここで学会員の皆様（大学にいる教員や大学院，さらには同窓生の方達）に，論文投稿における採択までの過程を紹介したいと思います．１）投稿された原書論文（以後，論文）は２名の査読者に査読してもらいます（査読者は編集長が依頼します）．２）その査読結果を編集長がみて修正できそうなところ，疑問のあるところを投稿者に質問して回答を求めます．３）その回答を再度査読者にみていただいて最終判断をしていただき，その結果を編集長が最終判断しています．以上の過程を経て掲載されるわけですが，投稿者が最も気をつけた方が良い点は，最初の投稿時に投稿規定に書いてある書式などを熟読し，完璧なまでにしてから投稿しなければならないということです．外国論文では最初の査読でacceptableとrejectしかありません．rejectであれば再投稿もできません．最初に細心の注意をはらい，形式を整えて論文を投稿しなければなりません．北海道医療大学歯学雑誌は少々甘いですが，これが普通だと思ってはいけません．私は，本大学の研究者，同窓生のみなさまが，ぜひ北海道医療大学歯学雑誌で訓練を重ねて，より専門的な世界的な雑誌に投稿・掲載され，世界に通じる研究者として羽ばたいていかれることを心から祈念致しております．

平成23年12月20日
和泉博之（編集長）

次号（第31巻，第１号）の発行は平成24年６月30日です．
会員各位の投稿原稿募集の締め切りは平成24年３月31日必着と致します．期日厳守の上，ご投稿をお願いします．本誌投稿規定（2011年第30巻，第２号の巻末あるいは歯学部生理学教室のホームページ；http : //www.hoku-iryo-u.ac.jp/~physiol/）をご参照の上，投稿してください．